

まえほ 穂通信

上高地・蝶ヶ岳

登山隊長 杉本 増生



「上高地」……と目にし、耳にするだけで、山好きには胸躍る。伊吹山登山で再開した「前穂登山プログラム」。翌年の加賀白山から、八ヶ岳、伯耆大山、燕岳、白馬岳天狗原、鳳凰山と続いて、とうとう、上高地からの蝶ヶ岳登山となりました。

顔ぶれは、前年と同じ六名。個々の特徴や性格を理解し、共感と信頼でつながる「前穂登山隊」です。

梓川にかかる河童橋は観光客でごった返していましたが、そこから徒歩で一時間、宿泊地の明神館には山の静けさが漂っている。

二人部屋にそれぞれのザックを置き、松原隊員の提案で明神池畔の穂高神社に参拝です。参拝、といえば、今年の一月でした。「前穂」創設十二周年を記念し、かつて松原が独立の決意を秘めて参拝した伊勢神宮へのお礼参りに、スタッフ十余名とともに出かけたのは、その折のことを思いだしながら、敬虔なる「前穂」代表とともに、安全登山を祈願し、柏手を打ちました。

宿に戻り、二階の部屋の戸を開けて、びっくり。

な、なんと！ 猿がいる。

大きな奴が、杉本隊長のザックに毛深い手をかけて、紐をほどこうとしている。風を通そうと、窓を開けておいたのがよくなかった。ザックに手をかけたまま、じろりとこちらを睨んだ様子は、「おさるさん」とはほど遠い、不敵な面構えです。どん、と足を踏み鳴らしてやると、そいつはゆっくりと窓へむかい、赤い実を無数につけた小梨の木に飛び移って姿を消した。

「熊出没注意」のポスターは玄関に貼ってあったけれど、猿には言及がない。動物嫌い

(という以上に恐怖症)の真規雄さんの目にふれたら、大騒ぎになるところでした。そうなれば、絶対、この部屋では寝ないでしょう。「真規雄さん、入っといで。おいしいお茶菓

子があるよ」
何食わぬ顔で呼びかけ、ほっと胸を撫でおろしたことでした。

翌日も快晴。梓川沿いの平坦な道を、登山口の徳沢へとむかう。
船頭する杉本隊長の背後で、江津男さんがテレビの宣伝文句や自作のテーマソング(?)などを、大声で連呼する。
「元氣やなあ、江津男さん。なんや、後ろから、早よ行け、早よ行け、て急かされてるみたい」
「この賑やかさで行ったら、残念ながら、熊には出あえませぬね」
しんがりを務める柴田隊員の半畳を、「よかったですぬエ、真規雄さん。熊は出せないんだって」
と松原隊員が受けとめる。
江津男さんの元氣な声が、穂高連峰の空へと立ちのぼっていきます。
徳沢園のカフェで優雅なコーヒータ임을持ったあとは、いよいよ、標高二六七七メートルの蝶ヶ岳への急登です。荷を背負った、五時間半の頑張り。遅れる者なく(ううん、小太りの松原隊員がちよっと遅れたかな)蝶ヶ岳に登り着きました。

発行日	2015年11月1日
発行元	自立センター前穂 〒569-1022 高槻市日吉台 1番町21-18 072-689-8600



んびりして、すぐ下方の蝶ヶ岳ヒュッテへ。登山者は少なく、六人で個室に入ることができました。
早めの夕食のあと、外へ出て、槍穂連山のむこうへ沈む夕日を眺め、個室に戻る。
窓から仰ぐ星空も素晴らしい。とはいえ、長丁場の登高で皆疲れている。個室いっぱい六人分の蒲団を敷き詰め、八時には寝てしまいました。

天気予報では、翌日は午後から雨。午前中は大丈夫ということで、予定どおり、尾根を北へ辿り、横尾経由で上高地へ下ることにする。蝶ヶ岳ヒュッテを出ると、風がきつい。森林限界を超えた吹きさらしの尾根道です。うっかりすると、風圧で身体がふらつく。全員防風衣を着こみ、先頭を杉本、後尾を柴田、中間を松原が、がちり固めて、ことなく縦走をこなし、山腹の樹林帯へと下り着く。風がなくなり、ほっとしたところで、

「しまった」
と松原隊員が声をあげる。
「記録を取るのを忘れた。あの風のきつい尾根を離れたのは、何時でしたっけ？」
「七時十分」
すかさず徳利夫さんが応え、あとは問わず語り、

「蝶ヶ岳ヒュッテを出発したのは、六時三十分やったナ」
「素晴らしいですぬえ、徳利夫さんッ」
物忘れの多い松原隊員がしきりに感心して

います。
予報より早く、昼前からぼつりとくる。小雨の中を上高地へ戻り着き、河童橋を渡って上高地温泉ホテルに投宿です。

露天風呂につかり、豪華な懐石料理に舌鼓を打ち、登山の疲れを癒す。
夜来の雨はやみ、下山日の朝はすっかり晴れ渡りました。上高地の空を、北穂、奥穂、前穂、西穂の峰々が切り裂いている。

「今回は、皆さんの足並もそろい、お天気にも恵まれて、いい登山でしたね。共感と信頼——八年間、地道に積み上げてきた登山プログラム」の成果です。えへんッ」

「自立センター前穂」代表、松原隊員の自画自賛に、

と真規雄さんが片手を振り上げる。
江津男さんは、何やらテーマソングを高らかに歌い上げる。
「そやナ」
とこれは、澄まし顔の徳利夫さん。
穂高の山並をあとに、われら(前穂)登山隊を乗せたバスは、上高地を遠ざかっていきます。

十月下旬に、三泊四日の行程で北アルプス蝶ヶ岳への登山活動をさせて頂きました。

■宿泊を伴う移動支援活動のため、事前

に障がい福祉課に計画書も提出し、了解

した。

した。



した。